

平成27年度 一般会計の決算

収入

科目	27年度決算額	26年度決算額	前年度比
市税	142億2,599万円	143億8,428万円	△1.1%
諸収入	21億233万円	9億271万円	132.9%
繰越金	12億9,704万円	18億2,330万円	△28.9%
使用料および手数料	4億6,430万円	3億5,787万円	29.7%
分担金および負担金	2億4,852万円	3億1,864万円	△22.0%
繰入金・財産収入・寄付金	3億4,187万円	5億6,590万円	△39.6%
A	186億8,005万円	183億5,270万円	1.8%
国庫支出金	37億1,187万円	32億7,020万円	13.5%
地方交付税	28億582万円	28億2,145万円	△0.6%
市債	18億1,640万円	12億7,360万円	42.6%
地方消費税交付金	17億6,225万円	10億5,222万円	67.5%
県支出金	17億5,962万円	17億1,674万円	2.5%
地方譲与税および各種交付金	8億4,333万円	7億7,795万円	8.4%
B	126億9,929万円	109億1,216万円	16.4%
合計(A+B)	313億7,934万円	292億6,486万円	7.2%

※自主財源とは、市が自主的に収入できる財源です。
 ※依存財源とは、国や県から配分される財源と借入金です。

総収入額は、前年度と比較して7.2%増の313億7,934万円となりました。
 市税については、法人市民税の減額などにより前年度比1億5,829万円の減となりましたが、諸収入や使用料および手数料の増額により、自主財源全体では前年度比3億2,735万円の増となりました。
 依存財源については、消費税率の引き上げ(5%→8%)の影響により、地方消費税交付金が前年度比7億1,003万円の増となりました。また、市道や公共施設の整備費増加に伴い国庫支出金や市債が増加したため、全体で前年度比17億8,713万円の増となりました。

支出

科目	27年度決算額	26年度決算額	前年度比
民生費	97億4,191万円	95億4,335万円	2.1%
総務費	45億5,226万円	41億9,481万円	8.5%
土木費	43億4,366万円	32億8,061万円	32.4%
教育費	41億7,257万円	40億7,659万円	2.4%
衛生費	23億5,214万円	25億1,488万円	△6.5%
公債費	19億8,542万円	20億6,674万円	△3.9%
消防費	10億6,006万円	10億32万円	6.0%
商工費	6億7,694万円	4億9,135万円	37.8%
農林水産業費	4億9,945万円	5億1,712万円	△3.4%
議会費	2億7,191万円	2億6,474万円	2.7%
労働費	2,026万円	1,715万円	18.1%
災害復旧費	19万円	16万円	16.7%
合計	296億7,677万円	279億6,782万円	6.1%

総支出額は、前年度と比較して6.1%増の296億7,677万円となりました。
 土木費については前年度比10億6,305万円の増となりました。これは(仮)可児駅前“子育て・健康・にぎわい空間”施設の用地取得や、市道56号線をはじめとした市道改良事業費の増加が主な要因です。
 また、総務費については社会保障・税番号システムの整備などにより前年度比3億5,745万円の増、民生費は、障がい者自立支援等給付事業費などの社会保障経費の増加により、前年度比1億9,856万円の増となりました。
 一方、衛生費は前年度比1億6,274万円の減となりました。これは可児衛生施設利用組合分担金が減額したことなどが要因です。

平成27年度 特別会計・企業会計の決算

〈特別会計〉事業目的を限定し、特定の歳入を特定の支出に充てて経理する会計

会計名	収入額	前年度比	支出額	前年度比
国民健康保険事業(事業勘定)	127億3,518万円	13.3%	120億6,869万円	13.6%
国民健康保険事業(直診勘定)	1,968万円	4.5%	1,563万円	0.7%
後期高齢者医療	9億6,519万円	4.9%	9億4,008万円	5.0%
介護保険(保険事業勘定)	59億6,977万円	4.5%	58億7,340万円	4.6%
介護保険(サービス事業勘定)	3,213万円	9.7%	2,654万円	0.8%
自家用工業用水道事業	1億9,426万円	4.5%	1億5,582万円	3.8%
公共下水道事業	30億7,700万円	△1.8%	29億9,353万円	△0.7%
特定環境保全公共下水道事業	2億6,036万円	△12.2%	2億4,204万円	△0.1%
農業集落排水事業	1億6,169万円	△8.0%	1億5,561万円	△8.5%
可児駅東土地区画整理事業	2,641万円	△23.8%	413万円	△55.2%
5財産区(合計)	2,766万円	△6.2%	1,228万円	△4.8%
合計	234億6,933万円	7.8%	224億8,775万円	8.3%

〈企業会計〉独立採算による特定の事業を経理する会計

会計名	収入額	前年度比	支出額	前年度比	
水道事業会計	収益的収支	26億4,792万円	△0.1%	22億3,128万円	0.1%
	資本的収支	1億3,667万円	598.2%	10億338万円	127.9%
不足額8億6,671万円は、当年度分消費税および地方消費税資本的収支調整額5,266万円並びに過年度分損益勘定留保資金8億1,405万円で補てんしました。					

問合せ先 財政課

平成27年度決算 4つの重点方針の主な取り組み

重点方針1 高齢者の安気づくり

支え愛地域づくりモデル事業(11億3,384万円)

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の支え合いの仕組みづくりに向け事業拡大に取り組みました。また地域活性化を目的としたKマネーの発行額は前年度より増額し、登録ボランティア数や協力店も増加しました(事業費にはプレミアムKマネーの発行に関する経費も含まれています)。

健康づくり推進事業(313万円)

健康づくりの推進のため、歩こう可児302運動の普及や、健康フェア可児での啓発を行いました。



歩こう可児302ウォーキング大会の様子

重点方針2 子育て世代の安心づくり

駅前子育て等空間創出事業(6億5,091万円)

マイナス10カ月から安心して子育てできる環境づくりとして、(仮)可児駅前“子育て・健康・にぎわい空間”施設の整備に向け基本設計、実施設計や用地購入を行いました。

国際交流事業(236万円)

オーストラリアのレッドランド市と教育や文化における相互協力に関する協定を結び、子どもたちが外国の子どもたちと直接触れ合える機会をつくるための取り組みを行いました。



レッドランド市との調定式

重点方針3 地域・経済の元気づくり

美濃桃山陶の聖地整備・PR事業(6,725万円)

国宝の志野茶碗・銘卯花塙を生んだ久々利大萱・牟田洞の地を美濃桃山陶の聖地として市内外に広く周知するため、荒川豊蔵資料館周辺エリアの整備に着手しました。

市道56号線改良事業(2億6,924万円)

二野工業団地へのアクセスを強化し、広域交通の利便性の向上を図るため、市道56号線(二野大森線)の整備を進めました。



整備された旧荒川豊蔵邸

重点方針4 まちの安全づくり

交通安全施設整備事業(1億2,086万円)

子どもたちが通学路を安心して通れるよう、通学児童・生徒の多い道路を中心に、市道2211号線の拡幅や通学路のカラー舗装を行いました。

消防施設整備事業(3,993万円)

地域防災の要である消防団の活動基盤整備のため、久々利消防庫の新築や、市内の消火栓の新設・改修を行いました。



カラー舗装された通学路

分かりやすく

平成27年度決算をお知らせします。

可児市の平成27年度決算（一般会計）を年収480万円のかにさん一家の家計に見立てて、家計簿を作ってみました。

※市では給与収入300～500万円の納税義務者の割合が最も高くなっています。

かにさん一家の紹介

別居



おじいちゃん

息子の家族を陰ながら応援しています。



お父さん

家族の大黒柱として奮闘中のサラリーマン。



お母さん

パート勤めのお母さん。家計を厳しくチェックします。



娘

習い事に忙しい中学生。

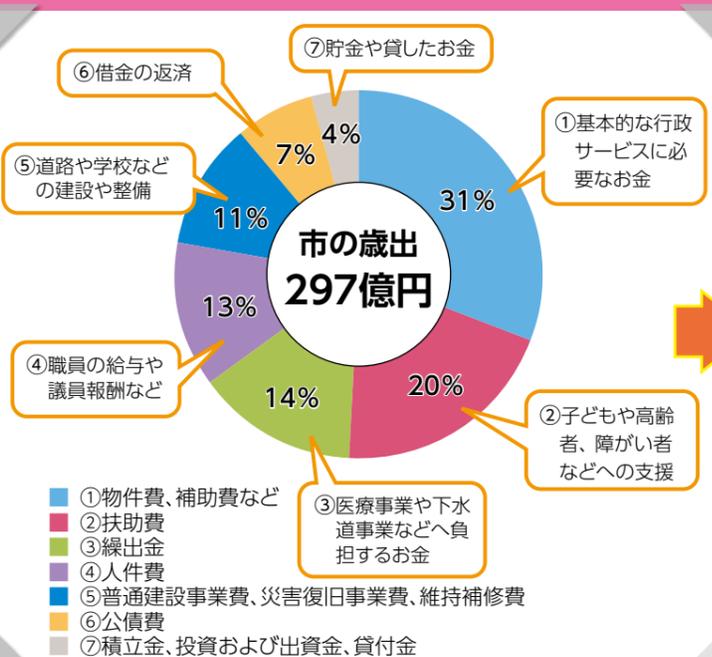
別居



息子

仕送りで生活する学生。自立に向けて頑張っています。

どんな支出があったんだろう？



支出のポイント

扶助費は年々増加傾向にあり、27年度も高い割合(20%)となっています。

また、物件費や普通建設事業費などの割合が26年度より高くなっています。これは、プレミアムKマナーの発行や、(仮)可児駅前“子育て・健康・にぎわい空間”施設整備などの新しい取り組みによるものです。

かにさん一家の家計簿 (1カ月当たり)

支出

①物件費など	光熱水費	11.5万円
②扶助費	医療費・養育費	7.7万円
③繰出金	息子への仕送り	5.1万円
④人件費	食費	5.0万円
⑤普通建設事業費など	家の補修	4.3万円
⑥公債費	ローン返済	2.5万円
⑦積立金など	預貯金	1.7万円
合計		37.8万円

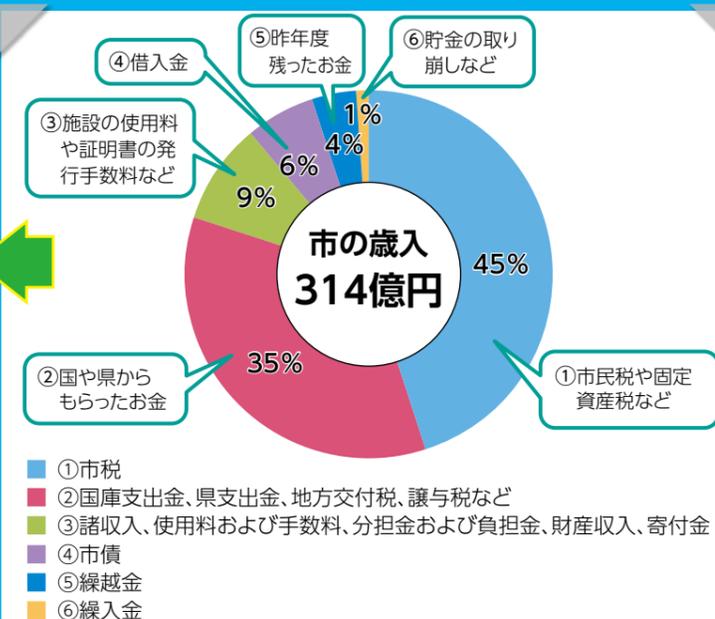
ローン残高 252万円

預貯金残高 179万円

収入

給料	18.1万円	①市税
祖父からの支援	13.9万円	②国庫支出金など
パート収入	3.8万円	③使用料など
銀行からの借入	2.3万円	④市債
先月残ったお金	1.7万円	⑤繰越金
預貯金の取り崩し	0.2万円	⑥繰入金
合計	40万円	

どんな収入があったんだろう？



収入のポイント

市税や国、県からもらったお金が収入の80%を占めています。市民の皆さんの税金で市の仕事が支えられています。

27年度は使用料などの割合(9%)が26年度(6%)より高くなっており、自主財源の確保に努めていることが分かります。公共施設整備費の増加により、市債の割合(6%)も26年度(4%)より高くなっています。



家族の医療費や娘の養育費(扶助費)が今月(27年度)も多いな。これらの支払いはどうしても必要だから仕方ないね。今月は家のリフォーム(普通建設事業費など)もしたし…。

それでもローンの返済(公債費)もしつつ、うまくやりくりして預貯金(積立金)もできたよ。



市の財政は大丈夫かな？詳しくは11月1日号！

借金残高 165億円 (前年比△0.1%) (前年度165億円)
 市民1人当たりの借金残高 16万3千円 (前年比△0.3%) (前年度16万3千円)
 (平成26年度決算時の県内他市と比べると、21市中21位。平均は36万5千円)
 預貯金残高 117億円 (前年比5.8%) (前年度111億円)
 市民1人当たりの預貯金残高 11万6千円 (前年比5.6%) (前年度10万9千円)
 (平成26年度決算時の県内他市と比べると、21市中17位。平均は16万4千円)

※出納整理期間中(H28.4.1~H28.5.1)の積立額および取り崩し額を含んでいます。
 ※平成28年1月1日現在の人口101,125人で計算しています。
 ※対前年度比は四捨五入の数値で計算しています。
 ※△はマイナス。



お父さんの給料(市民税、固定資産税などの市税)は、先月(26年度)より減ったわ。でも、パート収入(使用料など)が増えたから、今月(27年度)もなんとかやっていけたわね。これからは銀行からの借入(市債)や預貯金の取り崩し(繰入金)が増えすぎないように、やりくりしていかなきゃね。